

着任のご挨拶

シンガポール日本商工会議所 理事
NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD
Managing Director
野間 弘之



シンガポール日本商工会議所の皆様、この4月に理事に就任しました日本郵船の野間と申します。シンガポールには2023年4月に赴任し、1年間は前任の久保田の下で Corporate Director を務めておりました。今年4月に久保田の後任として現職に就任し、シンガポール日本商工会議所の理事職を拝命致しました。

簡単に自己紹介させていただきますと、日本郵船には1994年に入社し会社のローテーションシステムに乗ってキャリアの前半は自動車船、LNG船、コンテナ船といった主に営業部門での業務を経験しました。その後、ロンドンでの海外勤務を経て、後半はそれまでとはやや毛色の異なる秘書や人事といったコーポレート部門を経験し、このたびシンガポールに海外2度目の駐在となった次第です。今年4月で、ちょうど入社30周年の節目を迎え、今夏には同期会を開いて長年切磋琢磨してきた仲間と共にここまで続けられたことに感謝しささやかな幸せを噛みしめました。

私の所属しております NYK Group South Asia (通称NGSA) 社は1918年7月に開設された駐在員事務所を原点として、100年以上にわたりシンガポールの発展とともに歩んでまいりました。現在は事業部門の分社化が進み、NGSA社は南アジア(含オセアニア)における地域統轄会社として各事業会社のコーポレート支援やガバナンス推進を行うことが主な役割となっております。南アジアは広大な地理的広がりを持ち、様々な歴史や文化を背景に国によって貿易・外交政策や商習慣、法制、税制などが異なっているため、エリア全体を一つの面として捉えることが難しい地域であると実感しております。そのため、人と情報が集まるシンガポールの地理的優位性を最大限に活用しながら、各グループ会社と密にコミュニケーションを行い、地域統轄会社として求められる機能を高め、あるべき姿に少しでも近づくため試行錯誤する毎日です。

先月、貿易・運輸部会の活動の一環としてシンガポール島の西端で開発中の Tuas Terminal の見学会に参加いたしました。そこでは巨大なガントリークレーンが林立し、ヤードの中を遠隔操作された無人のコンテナ搬送車(AGV)が走り回るといふSF映画の一場面を見ているような光景が広がっていました。シンガポールが国家レベルで取り組んでいる港湾ハブとしての競争力強化や徹底した省人化・デジタル化を垣間見ることができ、その計画性や戦略性の高さに強く感銘を受けました。海運・ロジスティクス産業に関わる身として、そうしたシンガポールの発展に少しでも寄与していくと同時に、日々進化するシンガポールの取り組みをしっかりと注視していきたいと感じた一日でした。

シンガポールに来て感じることは社会の隅々にダイバーシティの意識が浸透しているということです。ジェンダーに関しては、女性が組織のトップや要職に就いていることは珍しくないですし、多くの女性がワークライフバランスを図りながらキャリアを築いています。またジェンダーだけでなく国籍や文化、年齢などについても多様性を重んじる施策を随所で見かけます。小さな国が発展していくための知恵がダイバーシティの推進に繋がっているように思いますが、同じく少子高齢化を迎え資源の乏しい日本にとって、人材のダイバーシティを尊重するシンガポールの取り組みは一つの参考事例になると感じます。

今後も商工会議所の活動を通して多くの方々とお会いし、新しい繋がりを増やして参りたいと存じます。会合等でお近づきの際には気軽にお声掛けいただけますと幸いです。末筆になりましたが、会員企業の皆様のご健勝とご発展を祈念して私の挨拶とさせていただきます。